

# 国語科 基礎クラス ■開講日:9月7日(土)14:00～ 毎週土曜日(全16回)

## 国語力の不足を感じている方へ。高1・高2のうちに磐石な国語力を！

近年の大学入試では、英語や国語のみならず、**数学や理科においてさえ問題文が長文化し、読解力が求められる場面が増えて**います。各教科の内容を十分に理解したとしても、論旨を正確に読み取り、理解したことを正確に表現するという基礎的な国語力が不足しては、入試において苦戦は避けられません。こうした力は急につくものではなく、高1・高2のうちにしっかりと鍛えておくことが大切です。

本コースでは、古典は文法を中心に、現代文は評論を中心に扱い、国語の学び方の「基礎」を形作ります。これは、**中学高校の国語の基礎ではなく、大学受験とその先の大学での学びに向けた基礎**です。小学校の国語の延長線上で国語を捉えている人にとっては、国語のイメージが根底からひっくり返るものとなるでしょう。そしてここで得た知見は、筆者(出題者)の意図を正確につかむ方法論として、国語に限らず他の教科の学習においても大きな指針となるはずです。

※本コースは、「古文・漢文」と「現代文・小論文」がセットになっている講座で、**どちらかのみ受講はできません。**

### ■ 古文・漢文セクション

古文・漢文はそもそも日本語なので、本来感覚的に読めるものです。しかし、古典の世界の言葉や文法は、現在私たちが使っているものとは異なります。何もしないままでは「何となく」しかわかりません。ここから脱却し正確に文章を読んでいくためには、古典のルールである文法を身につけるしかありません。

#### ◎原理から文法を理解し、それを使いこなす

「未然形+ば=仮定条件」「已然形+ば=確定条件」という公式が成り立つ理由を考えてみます。「未然」「已然」それぞれの言葉の意味が、

- ・未然=未だ然らず(いまだしからず)=まだそのようになっていない(事態未成立)
- ・已然=已に然り(すでにしかり)=すでにそのようになっている(事態成立)

ここからスタートすれば、どちらが「仮定」でどちらが「確定」になるのかは明白です。このように原理から文法を考えていくことで、暗記に頼らず、意味あるものとして文法事項を蓄積し、生きた文法を身につけることが可能になります。また、文法はあくまでも道具に過ぎず、それを上手に使う文章を読む力を養うことこそ、文法習得の目的です。授業では多くの文章に触れ、蓄積した知識の応用法、効果的な読み方を習得していきます。

### ■ 現代文・小論文セクション

「模範解答と自分の解答が食い違う」「自分の書いた文章を分かりにくいと言われる」というのは、誰もが経験することです。しかし、大部分の人がその理由を追及せずに、「まあ、いいか」と曖昧に流してきてしまったと思います。こここそ、国語力低迷の最大の理由があるのです。このセクションでは、「一つの答え」を模範解答として押し付けるのではなく、納得のいくまで「質問し続けられる」「考え続けられる」場としての授業を行います。

#### ◎読解力・思考力・表現力

文章のみで構成される世界には、文章で論理を展開するためのルールがあり、これはどんな文章にも共通なので、この理解なくして長く難しい文章を読みこむことはできません。前半の授業は、現代文の基本となるルールを解説し、それを使って実際の文章を読み解くことで、どのような文章にも対応できる読解力を身につけ、後半では、読解した文章に対して自分の意見を文章にしてもらい、添削指導を行うことで思考力と表現力を高めていきます。

### ■ カリキュラム概要

	古文・漢文	現代文・小論文
第1講	古文 1. 古文学習入門／主語述語で文章を考えてみる／活用の意味	第1講 どう読むか 1. 具体と抽象
第2講	2. 文章の要 -述語- を発見するために(1)	第2講 2. 同格関係
第3講	3. 文章の要 -述語- を発見するために(2)	第3講 3. 主張の型を知る
第4講	4. 文章の要 -述語- を発見するために(3)	第4講 4. 逆説という方法
第5講	5. 長い一文を短くする方法 -接続助詞の使い方-	第5講 5. 全体へ読みつなぐ
第6講	6. 文章の要 -述語- を正確に理解するための方法・助動詞(1)	第6講 6. 要約の方法
第7講	7. 文章の要 -述語- を正確に理解するための方法・助動詞(2)	第7講 7. 帰納的な方法
第8講	8. 文章の要 -述語- を正確に理解するための方法・助動詞(3)	第8講 8. 演繹的な方法(1)
第9講	9. 手に入れた道具を使って文章を正確に読む(1)	第9講 9. 演繹的な方法(2)
第10講	10. 手に入れた道具を使って文章を正確に読む(2)	第10講 読んで考える 1. 新しい民族問題
第11講	11. 文章の要 -述語- を正確に理解するための方法・敬語	第11講 } 2. 近代科学の陥穽
第12講	12. 手に入れた道具を使って文章を正確に読む(3)	第12講 }
第13講	漢文 1. 漢文学習入門／漢文を読むために必要な知識・句法(1)	第13講 } 3. 近代と民主主義
第14講	2. 漢文を読むために必要な知識・句法(2)	第14講 }
第15講	3. 漢文を読むために必要な知識・句法(3)	第15講 }
第16講	4. 手に入れた道具を使って文章を正確に読む	第16講 } 4. 人間の条件

2024年 高2対象

## 受験コース プレ講座(数学・英語)・国語科カリキュラム

高校数学 Field Xクラス	p.1
高校英語 Level Xクラス	p.2
国語基礎クラス	p.3

# 数学科 Field Xクラス

■開講日:9月6日(金)17:30～ 毎週金曜日(全16回+冬期集中授業10時間)

## 高校数学理文共通範囲の「定義」を自分のものにする

このクラスの目的は、高校数学の理文共通範囲で扱う"定義"を揺るぎないものとし、入試問題や大学数学で出会う未知の問いに対して、自分の力で考えられるようになることです。

特に **基本的な計算はできるが、決まったパターンの問題以外では手が動かない**

**言葉や記号の意味がなんとなくしか分からず、なぜそう解くのか説明できない**  
という人を対象とします。

### ■どんな問題にも対応ができるよう、基礎を徹底的に固める

入試問題を解く生徒が「何をしたいかわからない」や「〇〇の分野が苦手なんだよね」と言っているのをよく耳にします。その原因の多くは、問題文で使われている記号や言葉の意味を厳密に理解していないことにあります。彼らは、数学で出てくる用語・記号の定義があやふやなまま、なんとなく見覚えのある解き方を当てはめようとして「解けない」と言っているのです。数学は基礎ができてやっと応用ができる科目であり、その基礎の基礎である定義を深く理解することへの最短の道といえます。このクラスでは徹底した基礎理解によって、演習量に頼らずに数学の力をつけることを目指します。

### ■「定義・定理」をしっかり身につけ、演習問題で自分のものにする

具体的には、4ヶ月で高校数学理文共通範囲(数I、A、II、B+ベクトル)全範囲において、各分野の定義、定理を、「なぜそう定義するのか」、「なぜその定義・定理が必要になったのか」という観点から学んでいきます。

例えば、中学で学んだ幾何では解決しきれない問題を考えることが、三角関数を考えるひとつの理由になります。中学の幾何において、三辺の長さが等しい三角形は合同であるということを学んだことと思います。つまり、三辺の長さが分かっていたら三角形の角度の値は一つに定まるはずですが。しかし中学幾何でその値が求まるのは限られたケースのみでした。

この角度と長さの関係を表現しようとすると、三角関数という角と長さを紐づける関数が必要になります。そしてその関数を用い、三辺の長さとの関係を表そうとすると、自然と三角関数の重要な定理である余弦定理の導出に至ります。このように定理や概念を考えた動機を学ぶことにより、初めて見る問題を解くときにも、何を用いれば良いか自分で考え選択できるようになります。授業では、講義の時間とともに演習を行う時間を取り、ただ動機を理解するだけでなく、それを活かして問題を解く力もつけていきます。

#### ■カリキュラム概要

第1講 二次方程式	第7講 三角関数の加法定理	第13講 ベクトルの内積
第2講 二次関数	第8講 等差・等比の和	第14講 極限とは
第3講 整式	第9講 数列の帰納的定義と数学的帰納法	第15講 微分
第4講 集合・命題	第10講 指数対数関数	第16講 積分
第5講 三角関数の定義	第11講 図形と方程式	冬期集中授業 演習
第6講 三角関数と図形	第12講 ベクトルの一次結合	

# 英語科 Level Xクラス

■開講日:9月9日(月)17:30～ 毎週月曜日(全16回+冬期集中授業10時間)

## 文法を4カ月で概観する

受験コースで文法を総整理する前段階として、基本的な文法概念を整理・確認していきます。厳選された最低限の例文を通じて、抽象的理解を目指します。授業では板書を写すというよりも、話を聞いてテキストにメモをとってもらう方式を採用します。

主語と動詞(SV)で構築される英語の文章を分析的に把握するために、最も重要な分類である「品詞」に始まり、動詞の作り出す構造(「五文型」)、動詞の形式が示す「時制」「相」「法(助動詞)」「態」を扱ったのち、文の結合(「接続詞」「関係詞」)を学びます。その後SVをミニマムに表現できる「準動詞(不定詞・動名詞・分詞)」、形容詞・副詞の示す「比較」を扱い、少し戻って「法」を掘り下げ、そして周辺的ですが込み入った領域である「否定」「倒置」「冠詞・限定詞」を扱います。

### ■自由英作文で英語表現と思考力を鍛える

自由英作文を書くためには、正しい英語表現を記述する英語力、トピックについての知識、論理的思考力、そして説得的な文章を書く構成力が必要です。本講義では、説得的な議論に必要な論理とは何かを学んだ後、自由英作文のテーマについて議論し、考える時間を取ります。そうすることで、代表的なトピックについて理解を深めることができ、内容の伴った自由英作文を書けるようになります。出来上がった英作文については、その一つ一つの是非を全員で検討し、英語表現の添削はもちろんのこと、文全体の論理の筋が通っているかも細かく精査します。

### ■長文を内容までしっかりと読解する

英語の長文を読むときにありがちなのが、英語表現のみを追い英文を理解することだけに満足し、その内容を吟味しないことです。しかしこれでは長文の内容から学びを得る機会を失ってしまいます。短文の精読と違い、長文には「主張」とそれを支える「論理構造」があります。そこで、本講義では自由英作文のテーマに関連した長文を読み込み、どのような主張がどのような論理の下で展開されているのかを、理解できるようにします。そして自分がその言説に納得できるか、納得できないのであればどこが受け容れられないのかまで細かく検討していきます。長文を深く読解し、内容について自分の意見を持つ癖をつけることで、英語力のみならず、しっかりとした国語力、批判的思考力を身につけることを目指します。

#### ■カリキュラム概要

第1講 語句節・文の要素・品詞	第7講 関係詞	第13講 仮定法
第2講 基本五文型	第8講 to不定詞(1)	第14講 否定
第3講 時制・相	第9講 to不定詞(2)	第15講 倒置
第4講 助動詞	第10講 動名詞	第16講 冠詞・限定詞
第5講 態	第11講 分詞	冬期集中授業
第6講 接続詞	第12講 比較	